

ワインのおいしい未来をつくる。

Mercían



メルシヤンの日本ワイン事業における取組について

2026年2月20日

メルシヤン株式会社

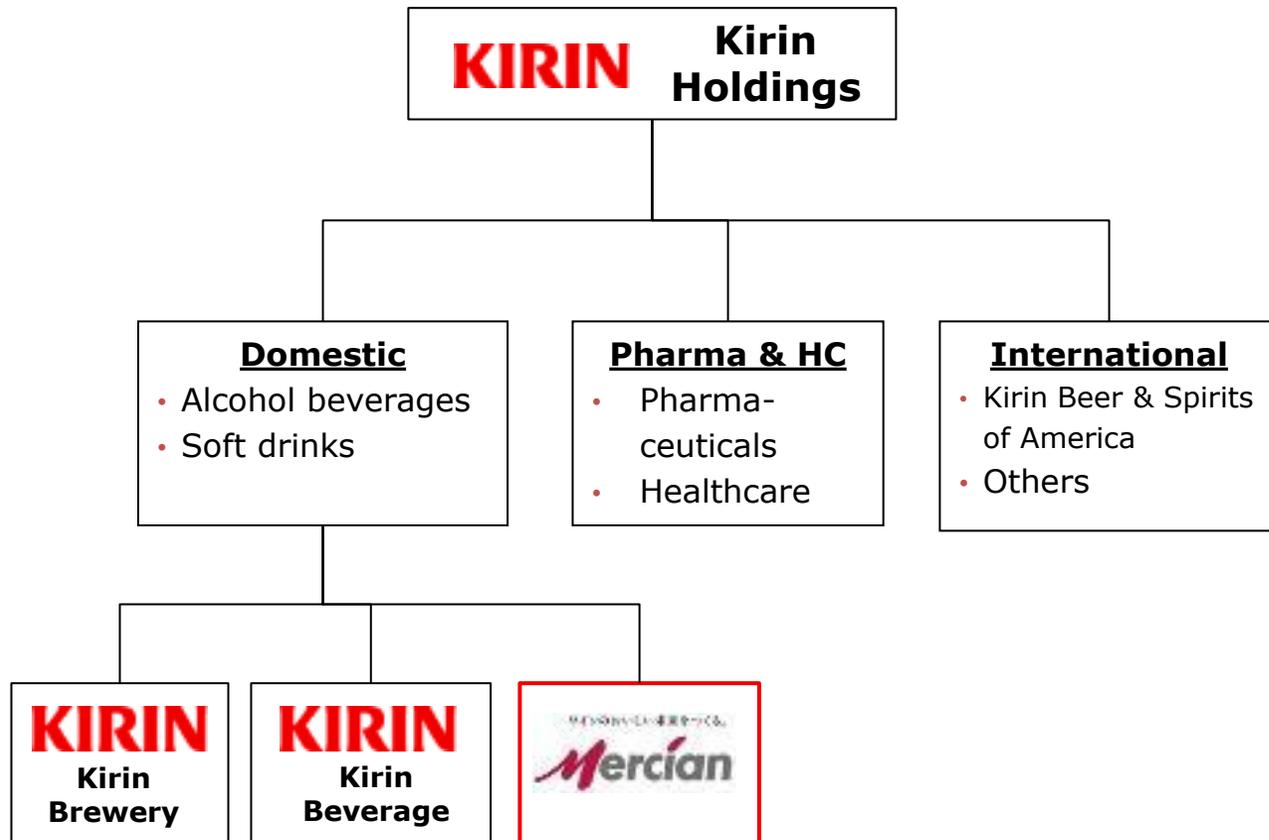
シャトー・メルシヤン事業本部

1. 会社概要と取組概要
2. 背景・課題
3. 取組推進のプロセス
4. 連携による成果と課題など

1. 会社概要と取組概要



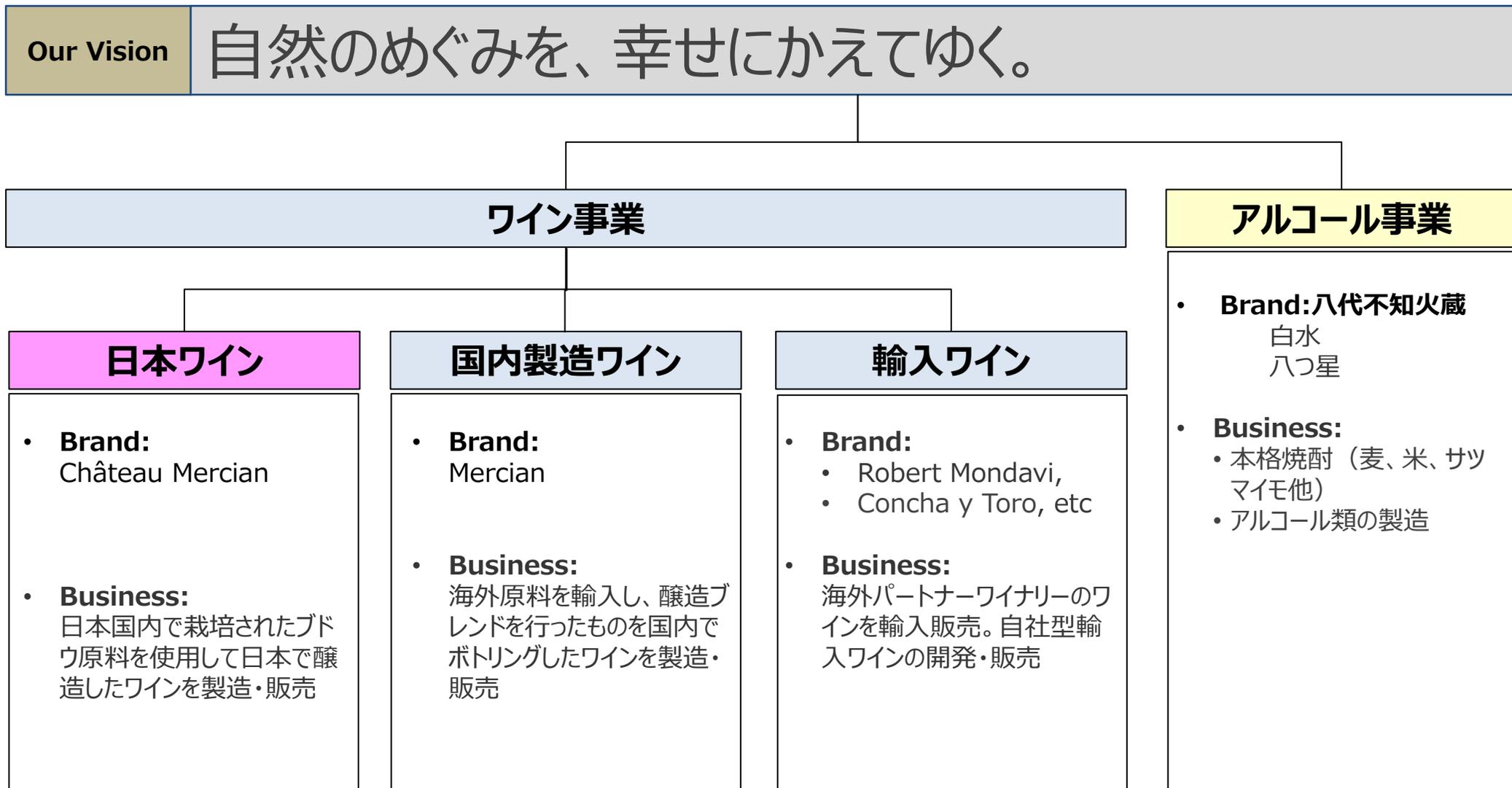
【Kirin Group Business structure】



【Mercian company profile】

Company	Mercian Corporation
Location	4-10-2 Nakano, Nakano-ku, Tokyo, Japan
CEO	Masamitsu Ootsuka
History	<ul style="list-style-type: none"> Founded in 1877, Dai-Nihon Yamanashi Budoushu-Gaisha, as Japan's first private sector wine company Company name changed in 1990, as Mercian Corporation Joined Kirin group in 2006
Business activities	<ul style="list-style-type: none"> Making Japanese wine and distributing Importing wine and distributing Distilling and sale of crude alcohol
Business location	<ul style="list-style-type: none"> 8 sales offices, across Japan 2 plants, Fujisawa and Yatsushiro, 3 wineries, Koshu, Ueda, and Shiojiri
Basic Information	<ul style="list-style-type: none"> Shareholder: Kirin Holdings 100% Capital: 3 billion Yen Employees: 700

Mercian's Vision and Business structure



1. 会社概要と取組概要



Château Mercian



1877年

シャトー・メルシヤンの源流となる
日本初の民間ワイン会社
「大日本山梨葡萄酒会社」が設立。

『日本にワインの時代を拓こう』
という思いのもとで、
2人の若き醸造家がフランスに派遣され、
甲州種による大規模なワイン造りが
始まりました

シャトー・メルシャン（日本ワイン）の3ワイナリー



Château Mercian

シャトー・メルシャン 桔梗ヶ原ワイナリー

シャトー・メルシャン
桔梗ヶ原メルロー シグナチャー



シャトー・メルシャン 梶子ワイナリー

シャトー・メルシャン
梶子 オムニス



シャトー・メルシャン 勝沼ワイナリー

シャトー・メルシャン
城の平オルトウス



2. 背景・課題

シャトー・メルシヤンの契約ブドウ栽培地



Château Mercian

長野県【北信地区】 1991年～ シャルドネ、カベルネ・ソーヴィニヨン

1991年から垣根による契約栽培を開始。雨が少なく、日較差も大きいためシャルドネの栽培に適しています。

長野県【安曇野地区】 シャルドネ、メルロー

南アルプスワインバレーに属し、新たなワイン産地として注目されています。

長野県【塩尻地区】 1976年～ メルロー・カベルネフラン

1976年からメルローの契約栽培を開始。日本を代表するメルローの産地として世界からも高い評価を得ています。



秋田県【大森地区】 1982年～ リースリング

1982年から契約栽培を開始。冷涼な気候の下、栽培農家と共に良いワインを造るべく、日々努力を注いでいます。

福島県【新鶴地区】 1976年～ シャルドネ

1976年から本格的に契約栽培を開始。雨よけシートで畑を覆うなどの努力が実り、高品質なワインが誕生しました。

山梨県全域【穂坂・玉諸・勝沼地区等】 甲州、マスカット・ベリーA

ワイン産出量は日本一を誇り、県内には80以上のワイナリーがあります。日本では、「甲州」「マスカット・ベリーA」の醸造用量はともに1位となっています。

背景

- 東日本4県（秋田、福島、長野、山梨）からワイン用ブドウを**契約栽培**により購入しワイン醸造を行う
- 最盛期は年間2,000トン以上のブドウを購入・醸造していたが、販売戦略変更により**少量高品質化**へ移行（現在は年間約650～700トンのブドウからワインを醸造）
- ブドウ市場の変化によりワイン用ブドウから**生食用ブドウへの転換**が進む
- ぶどう**栽培者の高齢化と後継者不足**により、ブドウ生産量が減少（ブドウに限らず農地が農地として利用されない状況が増加）

課題

- 持続可能なワイン造りのためブドウ原料を**継続的に必要**とする
- 「良いワインは良いブドウから」の実現のため**高品質なブドウ原料を必要**とする
- **日本ワイン**（日本で栽培されたブドウから造られたワイン）のブランディングと事業の継続
- **耕作放棄地**の増加
- 日本ワインヴィジョンの実現 **「日本を世界の銘醸地に」**

梔子ヴィンヤード（上田市）の開園 2003年～

●上田市（旧丸子町）塩川地区：**陣場台地**

陣場台地は、養蚕のための桑畑が広がっていたが、生産者の高齢化も伴い1990年代には農地は遊休荒廃化していた。

●メルシャン（日本ワイン）

自社管理圃場の拡大を目指し、**新規圃場の探索**を開始（主に、山梨県および長野県）した。

ワイン用ブドウの畑の要件

- ・陽当たりの良さ
- ・降水量の少なさ
- ・排水性
- ・通気性など



昭和60年当時の桑畑風景

陣場台地の持つ気候風土と合致（2000年に出会い）

一本木公園

The Ippongi Park

梔子ワイナリーを見下ろす丘の上にある公園。大きな桜の木が目印です。木陰のベンチからは、ワイナリーとヴィンヤードや山々の絶景をお楽しみいただけます。

The park is located on the top of a hill overlooking the Mariko Winery. Big cherry tree is the landmark. You can enjoy a wonderful view, including the winery and vineyard on the shady bench under the tree.

Château Mercian Mariko Vineyard Map

シャトー・メルジャン 梔子ヴィンヤードマップ



Château Mercian

梔子ワイナリーから楽しめる絶景

Wonderful View

北アルプス
Northern Alps

美ヶ原
Utsukushigahara

夢科山
Mount Tateshina



浅間山
Mount Asama



年間約100トンの原料を供給⇒さらなる原料を求めて探索を開始

3. 取組推進のプロセス

第2の椀子ヴィンヤードを！！

- 2013年 ぶどう栽培に適した農地を求めて山梨県、長野県内を探索開始
- 2014年 歴史的に関係の深い桔梗ヶ原のある塩尻市を訪ねる
塩尻市大字片丘エリアの農地を紹介いただく
片丘地区農業委員様と連携し地権者説明会を開催
- 2015年 農地所有適格法人「メルシャンヴィティコール塩尻株式会社」を設立し、土地の利用権設定を開始する
- 2016年 小さな区画（約30 a）へメルローを初植樹
- 2017年～ 順次メルロー、カベルネ・フラン他を植樹
- 2019年 製品化を見越した初収穫・醸造
- 2021年 「シャトー・メルシャン 片丘ヴィンヤード 2019」発売

以後、片丘から産出されたブドウを用いた数々の商品を発売し現在に至る

シャトー・メルシャンの3農業法人



Château Mercian

メルシャン・ヴィティコー
ル勝沼
山梨県甲州市
2015年～



栽培品種：甲州、マスカットBA
、シラー、メルロー、
カベルネ・ソーヴィニヨン等

自社管理圃場6 ha

メルシャン・ヴィティコー
ル塩尻
長野県塩尻市
2015年～



栽培品種：メルロー、カベルネ・
フラン、ピノ・グリ等

自社管理圃場15 ha

ラ・ヴィーニュ
長野県上田市
2003年～



栽培品種：ソーヴィニヨン・ブラン
、シャルドネ、カベルネ・フラン、
カベルネ・ソーヴィニヨン、シラー等

自社管理圃場30 ha

3つ農業法人で約50 haの自社圃場を管理

4. 連携による成果と課題など

塩尻市との連携による成果

プロジェクト達成における成果

- 塩尻市・農業委員会・メルシャンの連携により起案から成果物の発売まで短期間で実現
- お客様への新たな商品（産地）提案が可能

地域活性化における成果

- 塩尻市のワイン産業発展へ向け、新たな産地確立へ向けた下地を構築
- 地域の新たな名産品（適作果樹）の出現
- 新たなブドウ栽培者、ワイナリーが片丘へ集まり始めている（サブリージョン形成とツーリズムの醸成）



我々の目指す CSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造) 経営 の体現

塩尻市内における主要ブドウ栽培地区（サブリージョン）



Château Mercian



標高 780~800m
土壌 砂礫質
地形 西向き傾斜地



北アルプスや 塩尻・松本の市街地を一望できる、とても景観の美しい丘です。

農地の視点

- 必ずしもすべての有休荒廃地へ向けた解決策にはなりえない（中山間地の範囲でより良い条件を探してしまう）
- 農地所有適格法人又は栽培者個人としての農業継続（後継者確保）
- 他作物との共存（既存の生産者への配慮）
- 動物や鳥類による食害（餌の存在により害獣を誘引する可能性）
- 生産性（価値の創出）、ワイン用ブドウ栽培だけでは難しい（ワインに加工することで付加価値向上）

ワインビジネスの視点

- ワイン市場（日本ワイン市場）規模はステイ、ワイン生産者数は増加
- 生産産物を売り切り持続可能なビジネスとする
- 気候変動の影響が大きい（参入当初より早いペースでの気温上昇により品種再考が必要）

「農地を農地として活用」するだけでなく、何を生産し、どのように売り切るか

ぶどう栽培(農地)・・・農林水産省

ワイン醸造(酒税)・・・国税庁

ワイン製造(食品衛生)・・・厚生労働省

シャトー・メルシヤンのビジョン

“Japan recognized as one of the
world’s foremost wine regions”

“日本を世界の銘醸地へ”

Château Mercian has inherited Japan’s nature, culture and sensibility
to continues to evolve through the joy of the people.

The day will come when Japanese wine will be loved by the people in Japan and around the world.

日本の自然・文化・感性を継承しつつ、飲み手の喜びへと進化させる
日本ワインが日本と世界中の人に愛され、親しまれるお酒になる

ご清聴ありがとうございました

ワインのおいしい未来をつくる。

Mercían

キリンググループ



第2部 パネルディスカッション

中山間地域での持続可能な農業を企業連携の事例から学ぶ

メルシャン株式会社：勝野（第1部登壇者）

自治体：塩尻市農林部 部長 花岡 昇 氏

- 当時の塩尻市大字片丘地区開発時の一番の立役者

地域農業者：吉江 豊 氏

- 塩尻市片丘地区におけるブドウ栽培者
- ご自身のブドウを委託醸造により製造
- メルシャンの契約栽培者としてシャトー・メルシャンへもブドウを供給